

熊本大学保健センター
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 28 日
42. 保健センター

目次

I 熊本大学保健センターの現況及び特徴	2
II 研究の領域に関する自己評価書	3
1. 研究の目的と特徴	4
2. 優れた点及び改善を要する点	4
3. 観点ごとの分析及び判定	4
4. 質の向上度の分析及び判定	5
III 社会貢献の領域に関する自己評価書	6
1. 社会貢献の目的と特徴	7
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	7
3. 観点ごとの分析及び判定	7
4. 質の向上度の分析及び判定	9
IV 国際化の領域に関する自己評価書	10
1. 国際化の目的と特徴	11
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	11
3. 観点ごとの分析及び判定	11
4. 質の向上度の分析及び判定	12
V 管理運営に関する自己評価書	13
1. 管理運営の目的と特徴	14
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	14
3. 観点ごとの分析及び判定	14
4. 質の向上度の分析及び判定	18
VI その他の領域に関する自己評価書	19
男女共同参画	20
1. 目的と特徴	20
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	20
3. 観点ごとの分析及び判定	20
4. 質の向上度の分析及び判定	20
学生生活支援	21
1. 目的と特徴	21
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	21
3. 観点ごとの分析及び判定	21
4. 質の向上度の分析及び判定	21
産業医活動	22
1. 目的と特徴	22
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	22
3. 観点ごとの分析及び判定	22
4. 質の向上度の分析及び判定	22

I 熊本大学保健センターの現況及び特徴

1 現況

(1) 施設名：熊本大学保健センター

(2) 学生数及び職員数（平成30年5月1日現在）：学生（所属する学生なし）、専任教員数（現員数）3名（教授1名、准教授1名、助教1名）、看護職3名（常勤2名、非常勤1名、産休代替1名）、臨床心理士1名（非常勤フルタイム、週5日勤務）。保健センターの事務は、学生関係は学生支援部学生生活課、教職員関係は総務部労務課が、それぞれ担当している。

2 特徴

心身ともに健康で優秀な学生を社会に送り出す責務を有する地域の中核大学にあって、1万名余りに及ぶ学生と2千名以上の教職員の心身の健康を維持するための専門職が配置されている、学生及び教職員の健康管理を担当する小規模ではあるが学内唯一の組織である。

3 組織の目的

「保健センターは、全学的施設として、熊本大学の学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。」

Ⅱ 研究の領域に関する自己評価書

1. 研究の目的と特徴

保健センターは、学生の修学環境と教職員の就業環境の維持又は改善を目的に設置されている。したがって、保健センターにおける研究は、学生及び教職員の健康管理に直接的又は間接的に資することであり、研究領域は、学生及び教職員の保健管理の向上に直接的に関係する研究と、キャンパスの日常的な課題から派生するが社会一般でも問題とされる心身の健康に関する研究（生活習慣病の予防や精神心理的課題への対応）からなる。

〔想定する関係者とその期待〕

保健センターの設立目的から、学内構成員である学生及び教職員が想定される関係者であり、その心身の健康を向上させるのに有用な研究内容及び成果が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

生活習慣病の研究、特に循環器病学の研究においては、英文雑誌に毎年研究報告を发表するなど、研究活動が活発に行われている。また、平成 28 年度からは、地震による本学学生の精神的健康及び睡眠への影響等に関する研究も行われており、相応な研究活動が行われているといえる。

【改善を要する点】

平成 28 年 5 月からは精神科医が 1 名増えており、今後、精神心理相談の研究領域も拡がるのが期待される。研究資金獲得については、引き続き科学研究費への応募など積極的に行う必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

（観点到に係る状況）

保健センターの業績は、論文・総説の発表が年間 9-17 件、学会発表・学内外の講演が年間 19-24 回である。科学研究費補助金は年に 2 件が採択され、競争的資金の獲得はなかった。共同研究は平成 28 年度と平成 29 年度に 1 件、受託研究は平成 28 年度に 1 件、寄付金は平成 28 年度と平成 29 年度に 1 件であった。科学研究費補助金・競争的外部資金・共同研究・受託研究・寄付金の獲得額は多額ではないが、受入が行われている。（中期計画番号 22-30）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

一定の研究成果が継続的に認められる。学生生活及び教職員の健康管理を専門に組織された少人数の組織としては、十分な活動と判断される。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 研究の成果の状況

（観点到に係る状況）

研究成果の判断基準は本学医学部と同じ基準となっているが、本学医学部評価基準で SS 又は S 判定とされるインパクトファクターの高い論文雑誌への筆頭著者としての投稿は平成 20～25 年度に保健センターには認められなかった。また、平成 20～25 年度発表論文の引用件数も多くはない。平成 28・29 年度に外部評価の実施・学部評価の評価基準設定・各種競争的資金制度内での評価状況、学術賞受賞も該当するものがなかった。（中期計画番号 22-30）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

論文引用数・学術賞受賞などで特筆すべき研究成果は見られないが、学内の就学環境及び就業環境を維持するための設置されている少人数組織であることを勘案すると、相応の成果が認められるため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

論文引用数・学術賞受賞などで特筆すべき研究成果は認められず、論文・著書・総説の数や学会発表・学内外講演の数は前回評価時期（平成 22～25 年度期）と比べ減少傾向ではあるものの、生活習慣病領域に限られていた研究の内容が徐々に精神心理領域にも拡がりつつあり、前回評価時期と比べ同程度の水準が維持されているものと考えられるため。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

本学生命科学研究部評価基準で S 判定とされるインパクトファクターの高い論文雑誌への投稿が認められる。前回評価時期（平成 22～25 年度期）以上の水準は維持していると考えられるため。

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

大学全体が社会貢献を目指す中で、保健センターも少人数ではあるが、健康管理専門職の集団として、社会への貢献を指向している。

[想定する関係者とその期待]

保健センターは学内の学生及び教職員の健康管理のために設置されているので、学内の学生・教職員が保健センターの直接的な評価者となるが、社会貢献の領域では、学会活動から間接的に益を受ける関係者（例えば患者団体）・行政機関・地域の教育機関・一般住民が保健センターの社会貢献活動の関係者と考えることができ、これら機関や住民に、学生及び教職員の健康管理で培った知識や経験を還元することが期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

少人数であるが、健康管理に関係する職種が集まっているため、多様なニーズに応え、様々な領域で情報を提供できるという組織上の特性があり、学会活動を通じた社会貢献が認められ、また、地域の行政機関・教育機関・一般住民の多様な要請に応じていることは評価できる。

【改善を要する点】

多様なニーズに応えることのできる体制は評価できるが、活動量は十分とはいえない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点到係る状況)

保健センター独自に、社会貢献に関する計画や具体的方針は定められていないが、大学全体として社会貢献を指向する状況で、大学全体の社会貢献に関する方針に沿って活動している。(中期計画番号 31-37)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

独自の計画と具体的方針は定められておらず、したがって、公表・周知もなされていないが、公表された大学の基本方針に従っているため。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到係る状況)

全国的に組織された学会での活動において、計画に基づく活動が実施されている。(中期計画番号 31-37)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

独自の計画と具体的方針は定められておらず、公表・周知もないが、公表された大学の基本方針に従う活動は行われているため。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点到係る状況)

保健センターの社会貢献活動は、全国的に組織された学会における運営面での活動が主となっている。参加者の満足度を保健センター独自に把握するなどの評価はなされていないが、学会はそれぞれ公益的な活動を行い、学会全体として社会貢献を行っている組織で

あり、保健センターの社会貢献面での活動の成果を確認することができる。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

センターで参加者等の満足度を把握することができていないが、地域貢献活動や学会活動を通じて、社会貢献面での成果が認められるため。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点到係る状況)

学内での貢献を専らに設立されている組織であるが、学外(社会)への貢献を小規模ながら継続し拡大する努力が続いている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学生及び教職員の就学環境と就業環境の改善を行いながら、大学の方針に従い、センターとして学外(社会)への貢献を小規模ながら継続し拡大する努力が続いているため。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点到係る状況)

保健センター独自に、地域貢献に関する計画や具体的方針は定められていないが、大学全体として地域貢献を指向する状況で、大学全体の地域貢献に関する方針に沿った活動が行われている。(中期計画番号 31-37)

(水準)

期待される水準を上回っている。

(判断理由)

公表された大学の基本方針に従っており、熊本地震の際には上記救護活動に従事しているため。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到係る状況)

大学全体の地域貢献に関する方針に沿って、地域行政への協力(熊本労働局・熊本地方裁判所・熊本県精神保健福祉協会・熊本県福祉総合相談所)・地域の教育機関への協力(九州看護福祉大学)などの多様なニーズに対応している。(中期計画番号 31-37)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

独自の地域貢献に関する計画がないため、計画に基づいた活動とはいえないが、行政・教育・医療など種々の領域で、地域貢献活動が確実に行われているため。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点到係る状況)

保健センターの主催ではなく、地域社会や地域教育機関が行う活動への参加及び貢献となっているため、センター独自に参加者の満足度を把握することができていないが、継続的に参加を求められている点から参加者の評価が高いと考えられ、成果も認められる。

(水準)

期待される水準を上回っている。

(判断理由)

熊本地震の際には上記救護活動に従事しているため。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

学内での貢献を専らに設立されている組織であるが、学外（地域）への貢献を小規模ながら継続し拡大する努力が続いている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学生及び教職員の就学環境と就業環境の改善を行いながら、大学の方針に従い、センターとして、学外（地域）への貢献を小規模ながら継続し拡大する努力が続いているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

全国組織の学会における活動を主とした社会貢献活動が継続されているため。しかし、大学の方針・公表に依拠しているが独自の方針・公表がない点については、今後改善の余地がある。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

保健センターの日常活動で得られた知識・情報について、様々な機会を通じて情報発信・情報提供が行われ、地域貢献活動となっているため。しかし、大学の方針・公表に依拠しているが独自の方針・公表がない点については、今後改善の余地がある。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

保健センターは全ての学生及び教職員の健康管理を本務としているため、保健センターの国際化推進は、本学に留学中の学生に対する支援の質を上げることとなっている。

[想定する関係者とその期待]

熊本大学に在籍する外国人学生と外国人教職員及び家族が、心身の健康上の問題を保健センターに容易に相談できる体制が求められている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

教員は、全員英語によるコミュニケーションが可能である。受付を担当する看護職員も日常会話が可能で、多くの外国人学生は通訳を伴わずに単独で、保健センターに相談できる状況ができています。また、受付に翻訳ソフト入りのタブレットを常備している。

【改善を要する点】

日本語も英語も話せない外国人学生に対しては、当該学生の母国語と日本語又は英語を話す学生の同伴が必要な状況である。中国出身の学生及び韓国出身の学生も多く、より多くの言語に対応した翻訳ソフトなどの IT 機器の利用が必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到係る状況)

保健センター独自に、国際化に関する計画や具体的方針は定められていないが、大学全体として国際化を指向する状況で、大学全体の国際化に関する方針に沿って活動している。

(中期計画番号 38-43)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

小規模の組織でセンター独自の計画は設定されていないが、本学中期目標に記載された方針に沿って、英語表記のホームページが公表されている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到係る状況)

独自の国際化に関する計画がないため、計画に基づいた活動とはいえないが、大学全体の国際化に関する方針に沿って、大学に在籍している外国人及びその家族が利用する等、保健センターに求められる国際化に関する活動が行われている。教員は、全員英語によるコミュニケーションが可能であり、受付を担当する看護職員も日常会話が可能で、外国人学生は通訳を伴わずに単独で保健センターに相談できる体制が整備されつつあるが、中国語とハングルについての対応は不十分となっている。(中期計画番号 38-43)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

独自の計画と具体的方針は定められていないが、大学の基本方針に従う活動が行われているため。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

大学全体として国際化を指向する中で、保健センターは主に外国人留学生とその家族による利用に重点が置かれ、日常受診及び相談で判断しても利用が多い。保健センター単独の満足度調査は実施されていないが、その利用状況から、本学に留学中の外国人学生・研究者の評価が高いことが窺える。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

外国人学生・研究者の満足度をセンターで把握することができていないが、その利用の状況から評価が高く、成果が認められるため。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

保健センターは、全ての業務について日本人と同様な利用環境を外国人学生及び研究者に対して提供することを目指している。留学生の心身の健康に関わる問題の解決に際しては、保健センターが中心になり、問題の内容に応じて、学内では、学生支援部学生生活課・国際戦略課・学部及び研究科の教務担当窓口・RI担当などと、また、学外では、病院・地域の保健所・市役所（医療費精算）・検疫所・日本学生支援機構などと連携することにより対応している。改善のための組織的な仕組みとしては、保健センター自体が小規模組織であるため、対応策の情報をセンター職員全員で共有し、対応策を蓄積することにより、次回以降の問題発生時に迅速な対応を目指すという形をとっている。外国人学生及び職員の利用は多く、職員の外国語習得が推進され、日本の生活環境に慣れない外国人への対応力を改善する努力も続いている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

外国人学生及び職員の利用が多いが、外国人学生及び職員から保健センターの業務上の問題を指摘されることもなく、期待に沿った活動が行われていると判断されるため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

前回評価期間（平成 22 年～25 年度）と同様に、外国人留学生及び外国人研究者による保健センターの利用が続いているため。

V 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

「保健センターは、全学的施設として、熊本大学の学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。」と学内規則で規定され、学内で、学生及び教職員の心身の健康管理を行う専門組織として組織されているという特徴がある。

[想定する関係者とその期待]

熊本大学構成員（学生及び教職員）が対象である。保健センターにより、熊本大学の学生及び教職員の心身の健康に関する有用な支援が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

心身の健康管理に実績があり、学内の事情に通じた専門職（内科医・精神科医・臨床心理士・看護師）が所属し、少人数の組織で多様な問題の解決にあたっている点は評価できる。

【改善を要する点】

センター内に事務を一括して担当する職員が配置されていない。メンタル面で問題を持つ学生及び教職員が多く、相談の潜在的需要も多いが臨床心理士及びキャンパスソーシャルワーカーについて、十分な人員配置が行われていない。3つのキャンパスにまたがって、学生と教職員の健康管理業務を一体的に行う必要のある保健センターにキャンパスソーシャルワーカーが一人も配置されていない現状は早急に改善する必要があるものと考えられる。とくに学生のメンタルヘルス支援を行う専門職（臨床心理士、キャンパスソーシャルワーカー）は現在、黒髪キャンパスのみにしか配置されておらず、本荘・大江キャンパスにおける学生のメンタルヘルス支援体制の整備は急務と考えられる。学生と職員による業務評価については、現在の運営委員会を通じた体制、学生生活実態報告書や学生代表と学長との懇談会など、複数の方法で意見聴取が行われているが、今後、より多様な方法で意見聴取を行う必要があるなど、組織が小規模であることに伴ういくつかの問題点に対し、今後も全学の理解を得ながら施設全体で取り組む必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

保健センターは、教員3名（教授1名、准教授1名、助教1名）、医療職3名（常勤看護職2名、非常勤1名）、臨床心理士1名が配置されている。保健センターの事務は、学生関係は学生支援部学生生活課、教職員関係は総務部労務課がそれぞれ担当しているが、専任で事務を取り扱う職員は配置されておらず、学生関係と職員関係の健康管理業務を一体的に行っていないものの、現行の事務支援体制は概ね問題なく機能している。危機管理としては、センター利用者や職員の災害や事故など予期できない外的環境変化への対応が重要である。また、主に留学生を中心に結核や腸管感染症の学内発生例が見られ、病院実習学生などの感染対策も含め、感染症対策と管理は保健センターの重要な業務となっている。また、学生及び教職員の心身の健康管理情報を取り扱うため、情報セキュリティ管理や個人情報保護に関しては保健センターの中の情報LANを学内LANと独立させるなどの対応を行い人権に配慮している。また、保健センター内の経理は、保健センターのすべての資金の出納について教育支援課のチェックを受け、予算・決算・収支を保健センター運営委員会で報告することで不適切な経理を防止するなどの対応を行っている。危機管理体制は、センター長不在時の代行時の体制が決定され、また、学生支援部との連絡体制、産業医活動における労務課との連絡体制が敷かれている。（中期計画番号56-64）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

少人数ながら専門職が配置され、それを支える事務組織も機能し、学内関係者による業務管理も適切に行われているため。しかし、保健センター内に専任の事務担当者がいない点は改善の余地がある。

観点 構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

保健センターは、熊本大学の全ての構成員に利用される施設であるため、学生及び職員のニーズの把握は重要であり、保健センターの設置当初から、各学部・事務組織の代表が委員を務め、各組織が保健センターに求めるものを伝達する運営委員会が組織されている。学生に関しては、全学学生委員会が実施する学生生活実態調査などでニーズ調査が行われ、業務改善の一助となっている。学外関係者の意見や助言は、他大学保健管理施設（全国国立大学法人保健管理施設協議会加盟校）から得ることができる。熊本大学保健センターは全国国立大学法人保健管理施設協議会に加盟しており、保健センター年報を加盟校に送付し、他大学加盟校からも年報を受領する。加盟校同士で、互いに業務内容を把握した後に、毎年秋（全国大学保健管理研究集会開催週の金曜日）に協議会会議を開催し、その中で互いの業務内容を比較し改善点を検討するため、学外関係者の助言を得る良い機会となっている。（中期計画番号 56-64）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

保健センター運営委員会等を通し、学内の各組織からのニーズの把握と対応が行われている。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

保健センターの全ての職員が、資質の向上のため、あるいは、業務改善の手掛かりを得るため、様々な研究会・研修会に出席している。学内で開催される職員の資質向上のための様々な研修会（情報セキュリティ研修、ハラスメント対応研修、科研費獲得研修、研究不正防止研修など）への参加を呼びかけ、注意喚起も行っている。研修会当日に出席ができない場合は、研修会資料を配布するなどし、利便性を高めている。（中期計画番号 56-64）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

保健センター内の全ての職員が、業務改善の手掛かりを得るため、あるいは資質向上を目的に、定期的に研修会などに出席し、研鑽する環境が確認できるため。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

保健センターの業務内容及び活動結果は、運営委員会に毎年報告され、年報として学内外に報告することで点検・評価が実施されている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

保健センターの業務評価は、保健センター運営委員会に業務報告を行い、意見を聴取することで点検・評価が実施されているため。

観点 活動の状況について、外部者(当該大学の教職員以外の者)による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

保健センター単独では外部者による評価は行われていないが、全学的に実施される法人評価の中で定期的な評価を受けている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

全学的に実施される法人評価の中で評価対象となっているため。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

保健センター運営委員会で定期的に業務評価が行われ、日常的業務へのフィードバックと業務改善が実施されている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

自己点検・評価実施に際しては、定期的な業務評価が運営委員会等で行われ、職員に対しても評価結果が伝達され、改善に役立てられているため。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

保健センターホームページにより、保健センターの利用方法や活動状況、保健センターからの健康診断情報や健康情報などを閲覧できる。学生に対しては、保健センターだより、健康・安全の手引、学生案内などの印刷物により保健センター活動が周知されている。産業医活動は人事・労務ユニットを通じて教職員に周知されている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準を上回っている

(判断理由)

ホームページをより充実した内容にリニューアルし、多様な印刷物によってセンター業務の周知が行われているため。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

保健センターには入学者受入れはなく、本項には該当しない。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

保健センターには入学者受入れはなく、学部等で実施される入学希望学生に対する教育研究活動に関する情報公表は行われていないが、保健センターは教養教育を担当し、また、一部学部の学部教育も分担している。そのため、保健センターによる教育活動の内容は、全学生に対してシラバスを通じ伝達されており、授業改善アンケートにおいて学生による授業評価も受けている。個々の教員の教育研究活動は、保健センター年報により情報が公表されている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究活動の内容がシラバスや年報を通じて公表され、学生による評価とフィードバックも行われているため。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

平成 15 年改修時に、保健センター内に身体の問題を相談する救急受診・内科受診のスペース、心理精神的な問題を相談するためのスペース、身体測定コーナー、多くの利用者が一度に使用する際の健診スペースが整備され、同時に耐震化も実施された。保健センターは、保健センター棟 1 階を占め、4 カ所の出入り口のうち、主要な出入り口となる正面玄関にはスロープが設置され、センター内に段差もなく、身体が不自由な学生も容易に利用可能となっている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

施設整備により、耐震化、バリアフリー化、機械警備などによる安全防犯面への配慮がなされ、学生のニーズの把握及び対応も行われているため。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

利用者のニーズのために保健センターが利用している情報ネットワークは、インターネットの保健センターホームページ・電子メール、携帯電話などである。一般学生が最も使用する保健センター情報は自身の健康診断結果であるが、各学部に設置された情報端末で自身の健康診断結果を出力でき、就職時や奨学金などの申し込み時に使用しうる学内システムが構築されている。健康診断書発行件数は年間 2,430 件を数える。一方、保健センターの業務ではプライバシーを守ることが特に重要であるため、健康診断などのセンター内 LAN は学内一般 LAN と独立して設置しており、外部から侵入できないようなシステムとなっている。(中期計画番号 56-64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

保健センター業務の守秘性から、保健センター内情報ネットワークと学内一般 LAN が独立して構築されているのは当然である。学生が最も利用する健康診断結果は各学部に設置された端末により入手可能なシステムが構築されており、保健センター関連の情報に関して、学生の利便性は確保され、情報セキュリティも確保されているため。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

保健センターには図書館は設置されていないが、業務及び研究資料は保健センター内のキャビネットに収集整理され、主に職員に活用されている。

観点 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

保健センター内には学習設備ではなく、休息のための部屋が整備され利用されている。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

(記述及び理由)

質を維持している。センター施設内に事務組織は設置されていないが、学生支援部内に保健センター業務を行う事務担当者が配置されており、前回評価時点と同様に十分な連携が行われ、機能しているため。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

(記述及び理由)

質を維持している。活動の自己点検・評価は保健センター運営委員会の中で定期的に行われ、平成 21 年度時点と同様に、問題点を業務にフィードバックする体制が整備されているため。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

(記述及び理由)

質を維持している。教育研究を主目的として設置された施設ではないが、平成 21 年度時点と同様に、定期的に業務及び業績が公表されているため。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

(記述及び理由)

質を維持している。施設整備が行われ、平成 21 年度時点と同様に有効に利用されているため。

VI その他の領域に関する自己評価書

男女共同参画

1. 目的と特徴

保健センター独自に、男女共同参画に関する計画や具体的方針は定められていないが、大学全体として男女共同参画を指向する状況で、大学全体の方針に沿って活動している。

[想定する関係者とその期待]

保健センター職員が、職場内で性別による待遇の差や働きにくさを感じる事のないような職場環境を構築することが求められている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

小人数の組織で、全学では課題となる教員の性比のバランスもとれている。

【改善を要する点】

組織の中の性比に偏りなく、組織構成員における問題提示もなく、当面、改善を要する点は見当たらない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 男女共同参画基本方針の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施していること。

観点 男女共同参画基本方針の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点到る状況)

大学全体としては、特に教員に男性が多い状況があるが、保健センター内では、教職員の中の性比についてバランスがとれ、研究会にも男女を問わず職員が参加している。また、保健センターは職員へのメンタル面の支援を担当するが、中には子供の養育や家族の介護など家庭生活に問題を抱える職員からの相談も含むため、男女共同参画を推進するための間接的ではあるが一つの取組となっている(中期計画番号 54, 55)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

小規模の組織であるが、教員の中の性比に偏りなく、研究会にも男女を問わず職員が参加している。また、子供の養育や家族の介護などで、家庭生活に問題を抱える職員へのメンタル面の支援を通じ、男女共同参画を推進する取組が行われているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 男女共同参画基本方針の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施していること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

第1期中期目標期間とほぼ同様の職員構成及び性比であり、組織構成員からも改善を要する問題の提示がないため。

学生生活支援

1. 目的と特徴

設立当初から、学生及び教職員の心身の健康管理に直接的又は間接的に資することが目的であり、学生支援は主要な業務課題といえる。

[想定する関係者とその期待]

学内構成員である学生及び教職員が関係者で、その心身の健康を向上させる支援が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

少人数ながら、大学運営の基盤ともいえる修学環境と業務環境の改善に多くの時間を費やし、努力している。

【改善を要する点】

限られた予算の中で、年々高まるニーズに今後も応えるために、センター内で人的資源も含め業務分掌・業務内容を常に見直す必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 学生生活をおくる上での心身面の支援を適切に行っていること。

観点 定期健康診断を適切に行っているか。

(観点到に係る状況)

(水準)

期待される水準を上回っている。

(判断理由)

少人数の保健センターで多様な感染対策を行い、母子手帳の導入による感染状況のデータ収集・感染対策報告書の作成などきめ細かな対応を行っていることが確認できるため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目Ⅰ 学生生活をおくる上での心身面の支援を適切に行っていること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

定期健康診断の実施状況・メンタルヘルスの相談体制の確立・相談件数の推移・救急や内科疾患などによる受診数・学生の健康教育・感染対策において良好な対応が継続され、前回評価時点（平成22年～25年）と同様な支援が行われているため。

産業医活動

1. 目的と特徴

熊本大学は多数の職員が所属する大きな事業体である。保健センターは多数の職員の健康管理と事業場の安全管理を担当している。

[想定する関係者とその期待]

熊本大学職員の健康管理と、大学施設及び業務上の安全管理の向上が求められている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

業務量の増加が明らかであるが、少人数かつ兼務の状況で業務量の増加によく対応している。

【改善を要する点】

メンタルの問題で休職する職員への対応、復帰時の問題、長時間労働を行う職員への対応など、継続的に検討が必要な課題が多いため、より効率的な対応を行う必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 産業医活動などを通じ職場環境改善のために支援を行っていること。

観点 産業医活動などを通じ職場環境改善のために支援を行っていること。

(観点到る状況)

熊本大学では、法人化後、人事院規則ではなく、労働安全衛生法が適用される事業場となった。そのため、事業場のすべての構成員に対する職場環境・健康管理に果たす産業医の役割が重要となっている。保健センターは、法人化前は、文部科学省指導により学生の健康管理を目的に設置されていたが、法人化以降は、職員の健康管理も担当することとなり、業務は格段に増加した。熊本大学には4名の産業医が必要となったが、4名のうちの3名を保健センター教員が兼務し、主な産業医活動は、衛生管理者と共に職場巡視を行い作業環境改善などのための助言指導、職員健診の結果判定・事後指導、長時間労働者面接、休職復職判定、放射線取扱者に対する被爆判定・指導、特殊検診（有機物など有害物質取り扱い者の検診）、特定検診（有害業務従事者の検診・判定）、など多様な活動である。メンタルの問題で休職する職員への対応、復帰時の問題、長時間労働を行う職員への対応などへの対応も課題となっている。（中期計画番号 78-80）

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

法人化以降に業務量の増加が明らかであるのに、保健センターの人員増がなく、保健センター内に専任事務職員もいないという状況を勘案すると、業務量の増加に対し、よく対応がなされているため。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 産業医活動などを通じ職場環境改善のために支援を行っていること。

(水準)

質を維持している。

(判断理由)

産業医関係の業務は年を追うごとに増加するという状況で、安全衛生委員会での活動やメンタルに問題を抱える職員への対応など、職場環境改善を目的とする産業医活動が、前回評価時点（平成22年～25年）より多くの支援が行われているため。